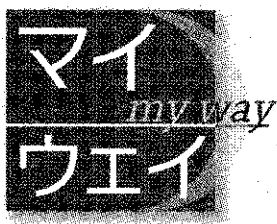


## シカゴで生活

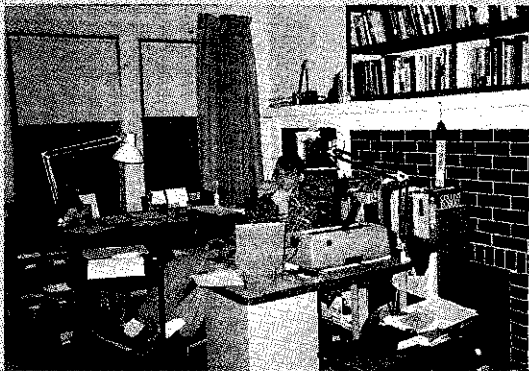
修士課程の修了が近づいてきた1978年の夏に次のステップに進むことを考えたのだが、カトリック大学には教育課程論の博士課程がないことが判明した。そこで、シカゴ大学から教育学の博士号を取得した神言会の先輩に勧められて、



南山大学学長 ミカエル・カルマノ 25

とりあえずシカゴ大学の School of Education に志願書を送った。指導教員に推薦書を書いてもらい、研究計画等についての書類を作成し、最後にGRE(大)の広さを実感できる、丸二

## マラソン仲間 新たな出会い



シカゴの神言神学院の部屋で

学院へ進学するの 日間のドライブであった。に必要な共通試験)を受けたが、GREの結果の通知とほぼ同時にシカゴ大学からの合格通知が届いた。そしてクリスマスが過ぎてから自分の持ち物を全て一台のステーションワゴンに詰め込んで、ワシントン

後にしてシカゴに向かって出発した。アメリカの領土の広さを実感できる、丸二水効果)は、冬の間に、冷風効果の要素、Wind Chill Factor)となり、マイナス20度の温度が、体感温度としてはマイナス40度にもなることも決して珍しくなかった。ワシントンでも続けてきたジョギングは、シカゴで本格的なマラソン参加に発展した。指導教員もジョギングが趣味で、何回も一緒に同じ(主に10マイル)レースに出た。ちなみに、初めて会った時、彼が「Please call me Paul」と言ってきた。以来、授業内

外でFirst nameで呼び合っていた。ところで、神言会の宿舎には料理する人がなく、だいたい12名のグループで食事当番を決め、私も月に3回程度スーパーで買い物して、夕食を作っていた。朝はパンやコーンフレークで、昼はそれぞれの学食で食べたが、授業が少ない私は、宿舎にすることが多く、昼食を自分で何かを作るか、出かけて外食するかという苦渋の選択をせねばならなかった。どちらも面倒くさく感じ、それ以来、昼食抜き生活になったのである。